

# 新湯治紀行（肘折温泉郷）

定年後の楽しみの一つが家庭菜園である。酒のつまみに採れた野菜料理は絶品である。

夏の季節では、朝採りのトマト、キュウリ、ナス、オクラ、エダマメ、5～7月に収穫したタマネギ、ジャガイモ、カボチャ等をサラダ、塩茹で、炊合せ、天ぷら等で頂く。

おみやげ



そば処 寿屋



朝市

美味しい野菜を作ろうと思うと、骨の折れる作業の連続である。畑を耕し、元肥を入れ、畝を作り、種・苗を植え、間引き、草取り、整枝、収穫などである。特に腰・膝に痛みが走るようになる。ある時、疲れた体について深酒をし、いつの間にか寝てしまった。そして、明け方に鳴子こけしの「肘折温泉に行こうよ」のささやきで目が覚めた。

肘折温泉は、湯治場の風情が残る旅館が軒を連ねる温泉街である。泉質はナトリウム-塩化物・炭酸水素塩泉である。温泉街の通りでは、早朝から採れたての野菜や山菜・きのこ等がならぶ朝市が名物である。伝統こけしの肘折こけしは、鳴子こけしと遠刈田こけしの流れを汲んでいる。

伝説では、肘を折った老僧が「上の湯」に浸かったところたちまち傷が癒えたという。また、黄金温泉カルデラ温泉館には、日本でも珍しい炭酸泉の飲泉ができ、胃腸の働きを活発にし利尿作用などに効果がある。

ひじおりの灯



足湯



上の湯



五大堂



奥の院



開湯千二百年を迎える静かな湯治場で、ゆったりとした時間が過ぎていった。心身ともに癒され、大蔵村を後にした。JR新庄駅から電車で仙台空港駅に向かうのだが、奥の細道で芭蕉が訪れた立石寺へ参拝するため山寺駅で途中下車した。宝珠院 立石寺は、1,015段の石段を一步進むごとに煩惱が消えていくという修行の道でもある。登山口から登り根本中堂・芭蕉像・・・山門・せみ塚・・・奥の院と石段を上がっていった。肘折温泉の湯のおかげで石段1015段を克服し参拝することができた。

2泊3日の旅でしたが、足・腰の痛みも消え、私の机の上にこけしが、二つになりました。



鳴子

肘折